

令和4年度 第1回 こども部会 会議録

【日時】 令和4年4月21日(水) 13:30~15:00 美馬市役所 北館1階101・102会議室

【参加者】 徳島県西部こども女性相談センター、発達障がい者総合支援センターアイリス
池田学園、半田中学校、池田支援学校、美馬分校、美馬市・長寿障がい福祉課
美馬市保険健康課、美馬市こどもすこやか課、美馬市教育委員会教育研究所
つるぎ町福祉課、つるぎ町保健センター、美馬保健所、児童デイワンハート穴吹
障害者支援センター小星園、障害者支援センターかしがおか、相談支援センターイノセント

【会議録】 相談支援センターイノセント

<会議内容>

1. 自己紹介

2. 美馬市・つるぎ町障がい者自立支援協議会こども部会の経緯について

- ・こども部会の発足からこれまでの経緯、部会の目的等について説明を行う。
- ・美馬市・つるぎ町障がい者自立支援協議会のホームページの紹介。(こども版障がい福祉のしおり、精神障がい者支援ブック、障がい福祉サービス事業所やサービス提供内容等を掲載。)

3. 情報共有と今年度のこども部会の取り組みについて

- ・関係機関の情報共有や事例検討

- ・引きこもり家族支援の研修内容の共有、美馬保健所での引きこもりサテライトや相談支援について
ひきこもり地域支援センター「きのぼり」サテライト相談事業:美馬保健所で毎月第1・第3金曜日、
午前10時30分から午後3時まで。ご本人や家族の相談の他、関係機関への技術支援もあり。
相談は予約制。

島根県のドクターの研修内容が良かったので、研修を実施するか講義資料の共有などしたいと考えている。

- ・障害児通所給付費の増加、支給量について(事業所の支援内容など)

次回6月のこども部会で、児童デイワンハート穴吹、ピース、イノセントが支援内容などについて10分から15分程度で報告する。

- ・支援者向けの研修(学校の先生や保育士さんも参加しやすい形、不登校やひきこもりなど)

(グループに分かれて協議)

- ・引きこもり、不登校の相談は児童相談所にときどきある。児相が「きのぼり」に相談したことがあるがすごく役立った。県西部の相談件数は少ない。関係者も相談してほしい。

- ・引きこもりの大人の方の事例、不登校気味のこどもの事例、不登校のこどもの家庭の支援が必要な事例の報告がある。美馬分校1年生13人中4人が不登校だったが、こどもの負担を減らすなどの支援により現在は全員学校に通えている。

- ・普通高校を中退してひきこもって関係機関のかかわりが無い。

- ・幼稚園に通えなくなったこどもが、児童発達支援のサービスは利用できて、小学校にも通えている。ゆっくり丁寧に子どもに関われるといい。

- ・不登校の数について、小中学校、県立学校それぞれ調査があり数の把握はできているのではないか。
 - ・特別支援学校の不登校児が多い。県独自で「奥田健司」先生の指導を受けている。
 - ・相談支援専門員として不登校児の支援で、どのように学校などに関わればいいのか。ケース会議も一つの方法。
 - ・不登校は初期対応が重要ではないか。保護者の協力、支援チャンスを逃さない、生徒の負荷を減らすなど環境の調整が重要。
 - ・学校に入りづらいが、各学校にはコーディネーターがいるのでコーディネーターを通すと良い。
 - ・障害児入所施設に入所しているこどもについて、情緒が不安定で行動障がいもあり、退所後の行先の目途が立たない。
 - ・事業所が平日に長時間、ひきこもりの児童を受け入れてくれているが、平日の単価で請求となってしまう。
(つるぎ町)
 - ・不登校児童数が増加している。昨年度は中学生だけでなく、小学校 1 年生の児童の不登校についての問合せが多かった。コロナの影響で不登校児童が増加している可能性があるが、一方で、ZOOM などのリモートでの授業には不登校の子も参加できている事例もある。(子どもすこやか課、教育委員会など)
 - ・小さな違和感を見逃してきた子が不登校になりやすいのでは。ZOOM で授業に参加できるのはいいことだが、家族以外との関わりが減ってしまうため、学校卒業後に社会参加がしにくくなる可能性がある。(池田支援学校)
 - ・中学校や高校に進学するタイミングで支援学校を希望する人も増えてきているため、保護者の選択肢も増えてきているのではないか。(池田支援学校)
 - ・不登校の子は外に出たがらない場合が多く、サービスやみまこ教室につなげるのが難しい。(子どもすこやか課、教育委員会)
 - ・みまこ教室に通えていない子が多い。(つるぎ町では、みまこ教室のようなものは聞かない。保健室登校などは聞いたことがある。)
- 利用者が少ない原因として考えられること・・・
- 教室は午前中のため、朝昼に保護者の送迎が必要。バスで通うこともできるが、予約が必要であるため、急にいけなくなった時にキャンセルしなければいけない(プレッシャーになる)。学校に行くのを優先しているため、図書館や保健室登校で通学している場合はみまこ教室に通っていない。
- ・西部に相談先や事業所が少なく、事業所に行く回数が週に 1 回など少なく十分な支援が受けられていないケースがある。資源が足りず、幼少期の成長が大きいタイミングに十分な支援が受けられない。
 - ・未就学でサービスを利用して成長し、就学後にサービスを利用しなくなる子が増えれば、通所給付費の増加を軽減できる可能性が高いが、資源が不足している。(美馬市)
 - ・発達検査の結果から、保健師よりサービスの利用を勧めることがあるが、受け入れてくれる保護者が増えている。数年前は保護者の障がいに対する認識から抵抗感が強く、サービスを勧めるのが難しいことが多かったが、現在は説明しやすくなってきた。(美馬市保健師)
 - ・三好市では、保育所・幼稚園・小学校で授業の様子や日常生活の様子などについて情報連携をしている。
(池田支援学校)
 - ・みまこファイルやつるぎっこファイルでは共有しにくい詳細も共有できているためよりスムーズに進学につながられている。各ファイルも必要だが、先生が読む時間を十分確保できないデメリットもある。
 - ・学校等の先生は長期休暇や休憩時間に研修に参加したり、毎週研修をしている学校もあり、研修は頻繁に実施している様子。(案内も多く届いている)しかし、研修に参加する時間が確保できなかったり、研修

会場まで行く時間がないなどの課題がある。

リアルタイムでなく、動画などでいつでも見ることができるような研修があれば、先生たちの負担軽減につながるかもしれない。

・美馬市では、不登校問題連絡協議会を毎年7月・2月に開催している。

委員は、中学校の養護教諭、スクールカウンセラー、みまこ教室の教諭、各小学校から1名、スーパーバイザーなど。(教育委員会)

・保護者が不登校やひきこもりについて危機感を持っていないケースがある。家庭で困っていることがあっても困っていることに気づいていなかったり、将来のことを心配していないことがあり、支援者との認識の差がある。

・障がいについての理解促進と啓発は今後も続けていけば、さらに保護者のサービスに対する抵抗感なども軽減できるのでは。(つるぎ町)

・池田支援学校から通所支援の話をしている時に、事業所の支援内容はどのようなことをしているのか質問あり。

言語訓練などをしているとの回答をした(支援内容については、勉強をみるだけでは通所支援として請求できない等厳しくなっていることの説明も行った。)

次回の子ども部会で、各事業所からより詳しく説明してもらうこととなった。

4. その他情報交換

・障害児通所支援事業所の空き状況について

ピース:水・木・土曜日に1名程度の空きあり。

児童デイワンハート穴吹:火・水・土曜日、祝日に空きあり。1週間通して利用も可能。

イノセント:児童発達支援は火から金曜日まで1から2名の空きあり。放課後等デイサービスは空き無し。

・美馬市つるぎ町こども版障がい福祉のしおりについて

それぞれの機関が関係しているページを確認し、訂正箇所があれば次回6月のこども部会で報告する。

*次回6月15日(水)開催予定。